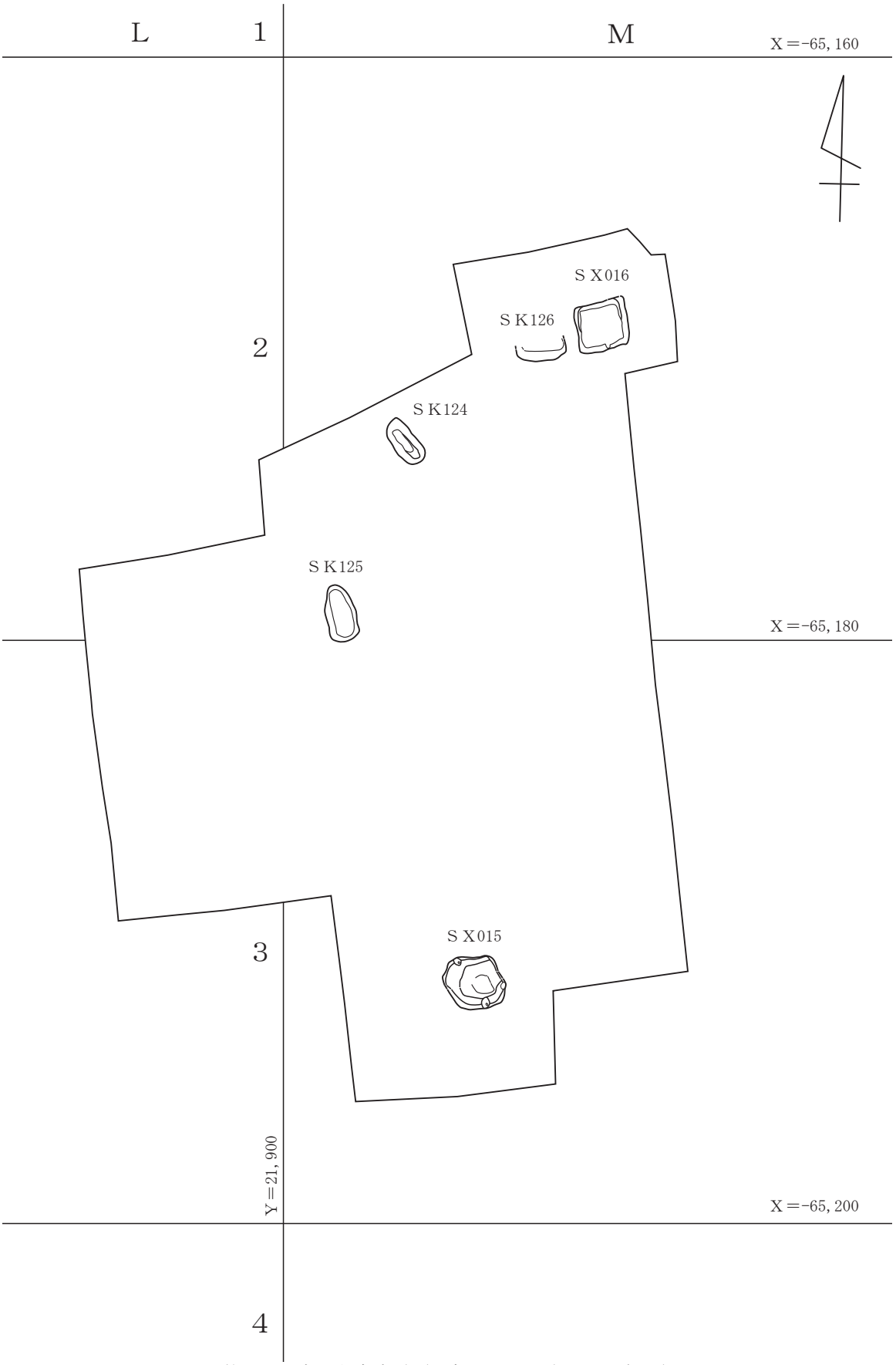


第７図　寺野台遺跡（７）遺構配置図（Ｓ＝１／200）

Ⅲ　寺野台遺跡（７）

１　調査成果

調査対象地は寺野台遺跡の北部に位置し、北側へ緩やかに傾斜し、北端部は傾斜が急となる。調査の結果、奈良・平安時代の土器焼成遺構３基、土坑２基が検出された。北部の斜面から検出された土器焼成遺構及びその周辺からは坏・甕を中心とした大量の土師器が出土している。

２　奈良・平安時代

（１）土器焼成遺構

ＳＸ 015（第８図、図版３、５）

位置　Ｍ３-53 グリッドを中心に位置する。

規模　長軸 191 ㎝、短軸 187 ㎝の楕円形を呈する。深さ 17 ㎝を測り、壁は緩やかに立ち上がる。遺構底面ほぼ全面より焼土が検出され、炭化物や少量の灰も検出された。焼土は底面ほぼ全面で確認できるが、北部よりも南部の方がよく焼けている。また、堆積土は２層・６層が強く被熱しており、火床面と考えられる。２層と６層では被熱具合が異なり、下層の堆積も異なることから、本址が数度にわたり使用された可能性も考えられる。

遺物　総量は 1,729.38 ｇであり、出土遺物は土師器杯（１）、台付坏（２）、甕（３・４）、礫がある。遺構全面で確認ができる焼土直上より出土している。土師器坏の底部は、回転ヘラケズリ、手持ちヘラケズリ、回転糸切りが見られる。１は直線ぎみに立ち上がり、口縁部で小さく外反する。底部及び体部下部に回転ヘラケズリを施す。２は断面三角形の高台を貼り付け、内面に黒色処理、底部及び体部下部に回転ヘラケズリを施す。３はロクロ成形の小型甕である。４は倒卵形をし、外面体部上部に縦方向のヘラケズリ、下部に横方向のヘラケズリ、内面に横方向のヘラナデを施す。

ＳＸ 016（第９～ 19 図、図版３～８）

位置　Ｍ２-45 グリッドを中心に位置する。

規模　主軸 177 ㎝、短軸 166 ㎝の方形を呈する。深さは壁が最も良好に残存している南壁で 56 ㎝を測る。壁は南壁のみほぼ垂直に立ち上がり、他の壁は斜め方向に立ち上がる。底部全域に焼土が広がっており、被熱により硬化している。炭化物は南西部で多く検出された。焼土下から２基のピットが検出され、Ｐ１は直径 28 ㎝、深さ 26 ㎝の楕円形を呈し、Ｐ２は直径 22 ㎝、深さ 24 ㎝の楕円形を呈する。堆積土より大量の土師器坏、甕等が出土している。坏は遺構南側堆積土上層に集中し、甕は床面全域から出土した。甕は小型甕を除き、遺構床面に同一個体が分散して出土している。１ｍ以上離れて接合するものや、一部が北側遺構範囲外から出土するものも見られる。これらの様子から、甕は投棄された可能性が考えられる。坏は出土状況より、遺構南壁から遺構内に流れ込んだことが想定できる。これらのことから、遺構から出土する遺物は、床面全域から出土する甕が投棄された時期、南壁上から遺構内に坏を中心とした遺物が流れ込んだ時期の２段階に分けられる。

遺物　総量は 33,621.1g であり、出土遺物は土師器皿（１、２）、坏（３～ 20、47、48）、鉢（21）、甕（22～ 43）、置きカマド（44）、片口鉢（45）、甑（46）、鉄鉢形土器（49）、須恵器甕等である。土師器坏の底部は、回転糸切り（３、４）、回転ヘラケズリ（５～ 10）、手持ちヘラケズリ（11 ～ 20）が見られ、手持ちヘラケズリが多い。手持ちヘラケズリの中には、回転糸切りの痕跡が残るものがある。底径は、口径の１／２

以下のものがほとんどである。少数ではあるが、底径が７㎝以上の大型のもの（４）も出土している。21、47、48 は墨書土器であり、21 には『生』の文字が確認できる。22、23 は小型甕である。甕の調整は小型甕、大型甕で違いはなく、外面体部上部に縦方向のヘラケズリ、下部に横または斜め方向のヘラケズリ､内面に横方向のヘラナデを施す。ほとんどのものが倒卵形である。また底部の確認できる甕の中には、焼成後に調整するかのように打ち欠いた痕跡が見られるものがある（24 ～ 29、40 ～ 43)。特に 29 においては､調整後の底部形が方形になっており､意図が強く見受けられる。甕の多くは使用された痕跡がなく、完形のものも少ない。底部に調整があるものとないものとで出土位置に違いは見られなかった。

ＳＫ 126（第９、10、20 図、図版４）

位置　Ｍ２-44、54 グリッドに位置する。

規模　長軸 172 ㎝、短軸が 120 ㎝以上の隅丸方形を呈する。遺構北半は残存していないため、詳細は不明である。深さは残存している東壁で 10 ㎝を測り、壁は斜めに立ち上がる。底面には焼土が堆積し、北半は残存していないため不明であるが、南壁際によく焼けている箇所を確認できる。焼土下から２基のピットが検出され､Ｐ１は直径 17 ㎝､深さ５㎝の楕円形を呈し､Ｐ２は直径 16 ㎝､深さ７㎝の楕円形を呈する。

遺物　総量は 363.9 ｇであり､土師器が多くを占める。１は甕の底部であり､外面に横方向のヘラケズリ､内面に横方向のヘラナデを施す。

（２）土器集中区（第 10、20 図、図版４、８）

ＳＸ 016、ＳＫ 126 周辺のＭ２-23 ～ 26、33 ～ 36、43 ～ 46、53 ～ 56、63 ～ 66 グリッドから集中して遺物が出土したことから、土器集中区として扱う。なお、ＳＸ 016、ＳＫ 126 の位置においても、両遺構の確認面以上で出土したものに関しては、本項で取り扱う。

遺物　総量は 16,328.91 ｇである。出土遺物は土師器坏（１、２)､土師器甕（４、８)､置きカマド（３)､土師質須恵器甕、甑（５)、須恵器甕（６)、灰釉陶器（７）等であり、全体の約９割が土師器である。斜面から分散して出土しており､接合例が少なく､破片のみの出土がほとんどである。土師器坏の底部は､回転ヘラケズリ（１)、手持ちヘラケズリ（２)、回転糸切りが見られ、手持ちヘラケズリが多い。手持ちヘラケズリの中には、回転糸切りの痕跡が残るものが多くある。１は底部及び体部下部に回転ヘラケズリを施す。２は内面を黒色処理し､底面及び体部下部に手持ちヘラケズリを施す。３は焚口の左側に当たる。４は墨書土器である。外面に縦方向のヘラケズリ､内面に横方向のヘラナデを施し､輪積みの痕跡が残る。

（３）土坑

ＳＫ 124（第 21 図、図版４）

位置　Ｍ２-62 グリッドに位置する。

規模　長軸 174 ㎝、短軸 85 ㎝の長楕円形を呈する。深さ 66 ㎝を測り、壁は斜めに立ち上がる。

遺物　なし。

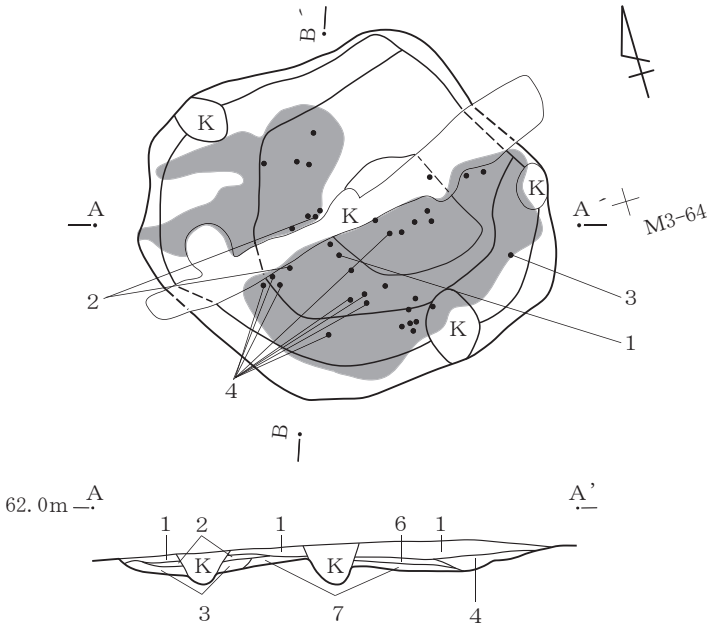
ＳＫ 125（第 21 図、図版４）

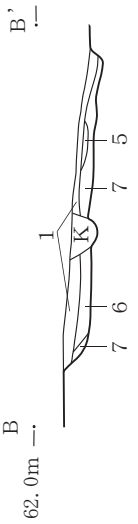
位置　Ｍ２-91 グリッドを中心に位置する。

規模　長軸 198 ㎝、短軸 105 ㎝の長楕円形を呈する。深さ 12 ㎝を測り、壁は緩やかに立ち上がる。

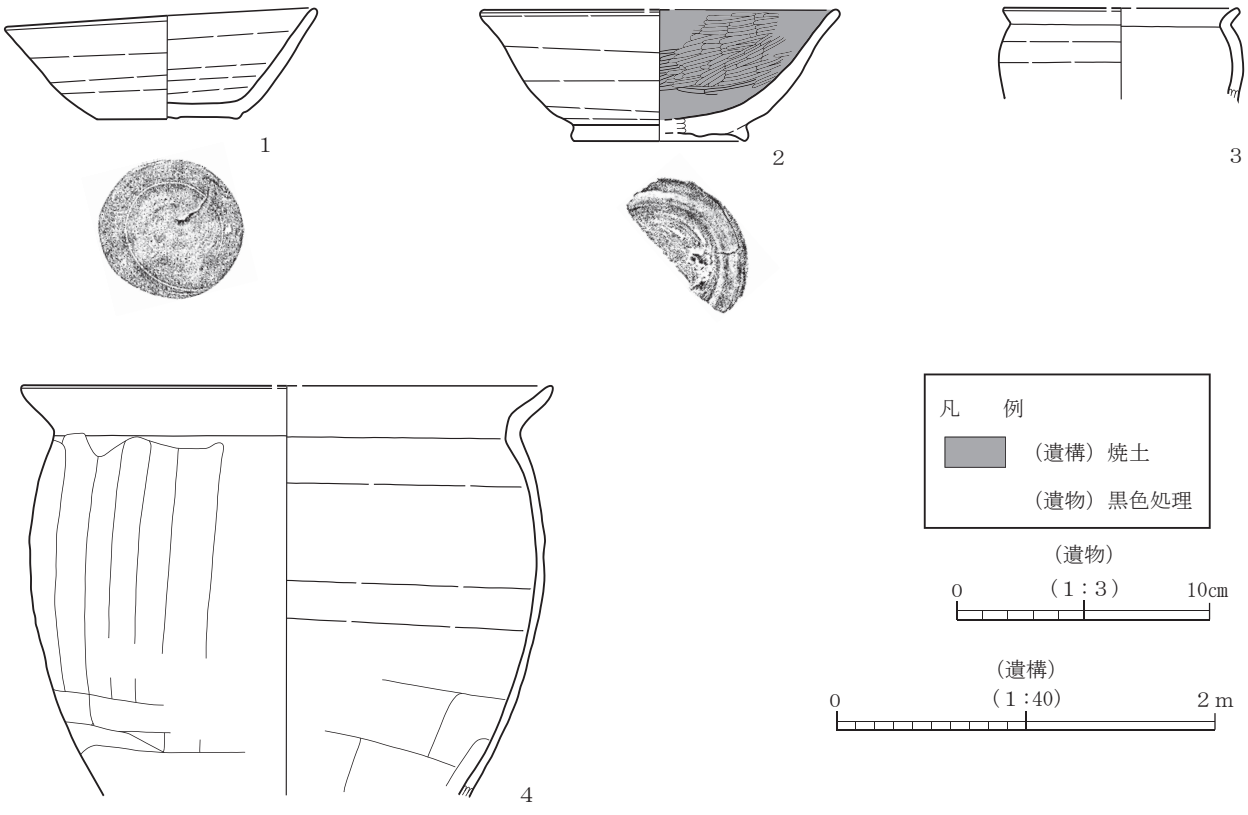
遺物　総量は 293.75 ｇで、すべて土師器である。甕は外面体部に縦方向のヘラケズリ、下部に横または斜め方向のヘラケズリ、内面に横方向のヘラナデを施す。

S X015



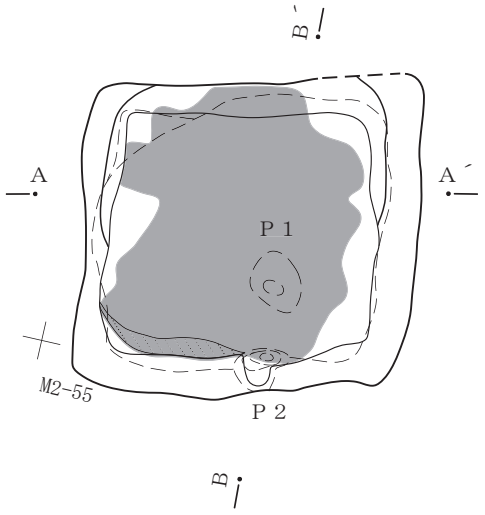


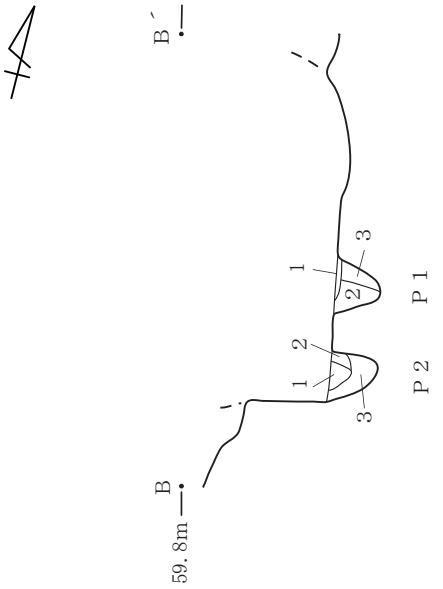
1	暗褐色	粘性：弱い	しまり：弱い	焼土少量含む
2	暗赤褐色	粘性：弱い	しまり：強い	焼土主体層、強い被熱
3	暗黄褐色	粘性：弱い	しまり：強い	焼土少量含む
4	暗褐色	粘性：弱い	しまり：弱い	焼土、炭化物少量含む
5	暗赤褐色	粘性：強い	しまり：弱い	焼土主体層、灰少量含む
6	暗赤褐色	粘性：弱い	しまり：強い	焼土主体層、強い被熱、炭化物少量含む
7	暗黄褐色	粘性：弱い	しまり：強い	焼土、炭化物少量含む

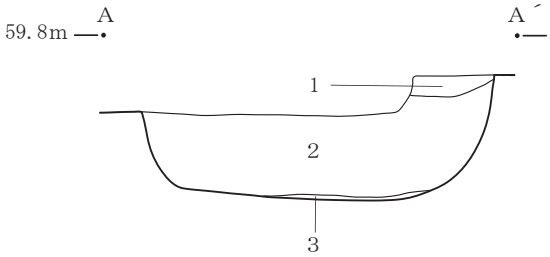


第８図　ＳＸ 015 遺構及び出土遺物実測図

S X016







S X016

1	暗褐色	粘性：強い	しまり：強い	
2	褐色	粘性：弱い	しまり：強い	土師器大量出土
3	明褐色	粘性：弱い	しまり：強い	焼土主体層 ローム粒子多量含む

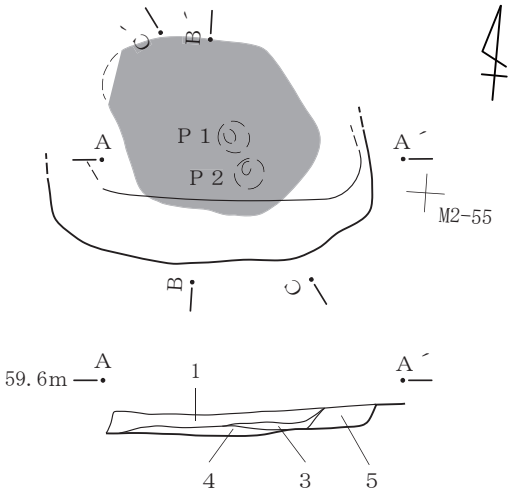
P 1

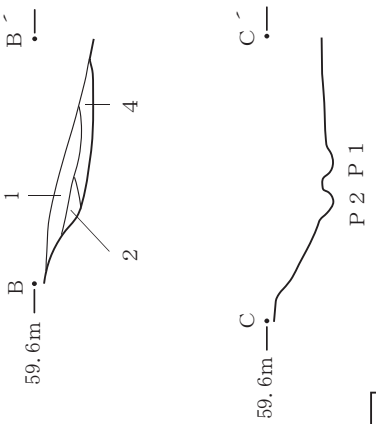
1	暗赤褐色	粘性：弱い	しまり：弱い	焼土多量含む
2	茶褐色	粘性：弱い	しまり：やや強い	焼土少量含む
3	褐色	粘性：やや強い	しまり：やや強い	ローム粒子多量含む

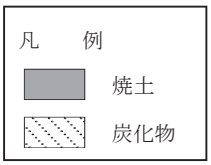
P 2

1	暗黄褐色	粘性：弱い	しまり：弱い	焼土少量含む
2	暗黄褐色	粘性：弱い	しまり：やや強い	焼土少量含む ローム粒子多量含む
3	褐色	粘性：弱い	しまり：弱い	ローム粒子多量含む

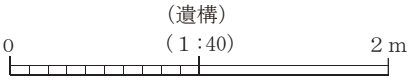
S K126



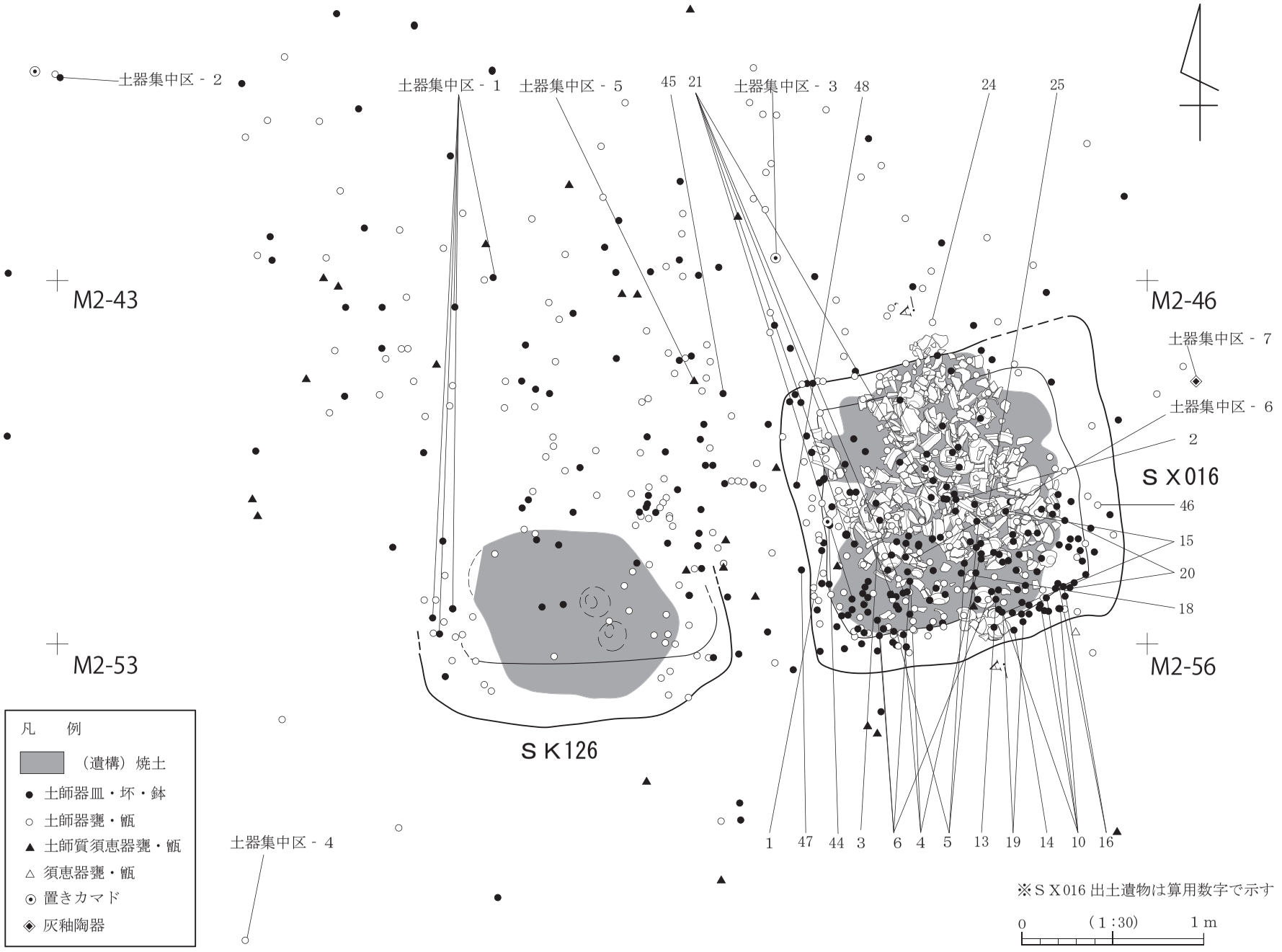




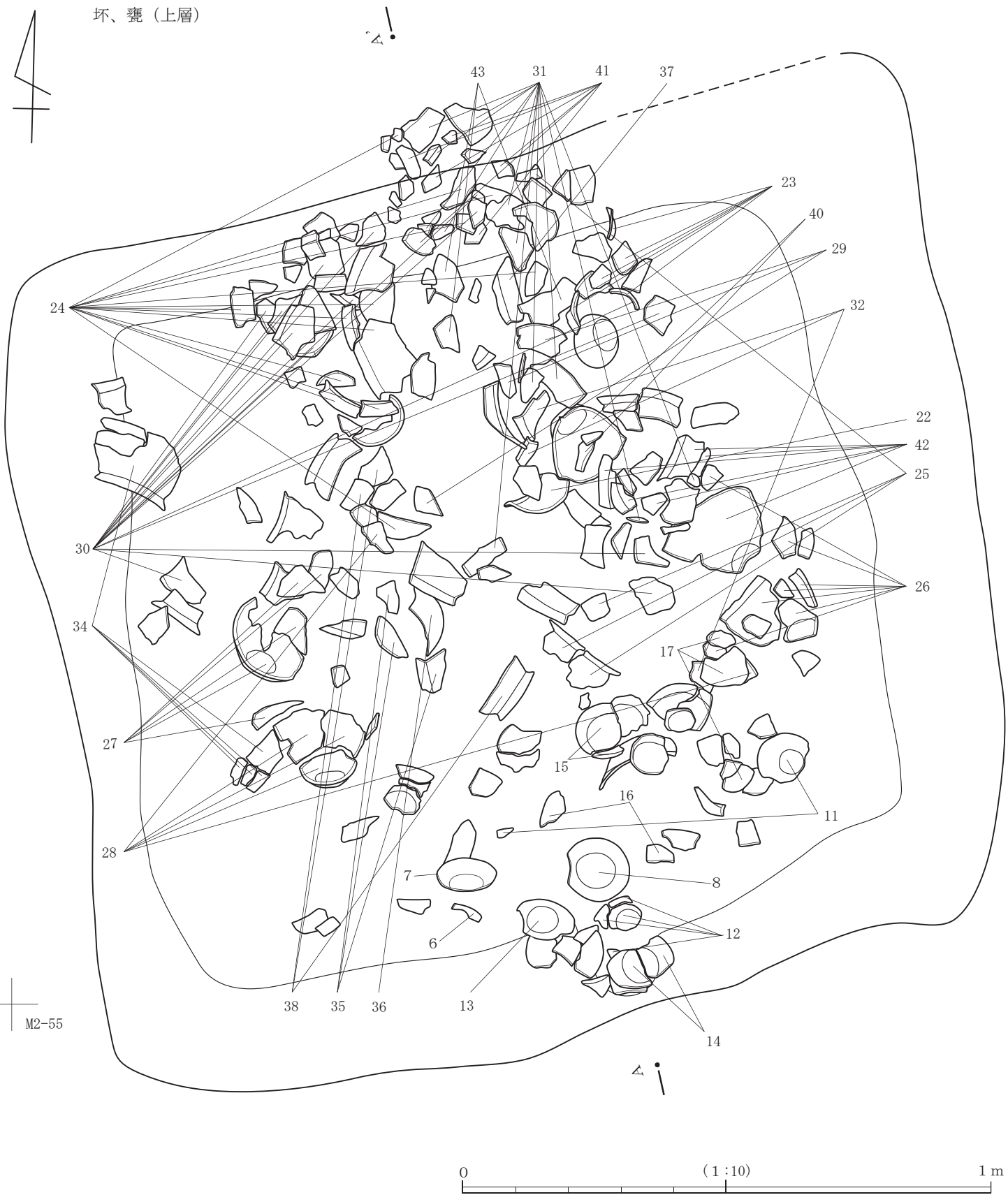
1	暗褐色	粘性：弱い	しまり：強い	焼土、炭化物少量含む
2	暗褐色	粘性：弱い	しまり：弱い	焼土少量含む
3	褐色	粘性：弱い	しまり：強い	焼土主体層
4	褐色	粘性：弱い	しまり：強い	焼土主体層、炭化物少量含む
5	暗褐色	粘性：弱い	しまり：強い	ローム主体層



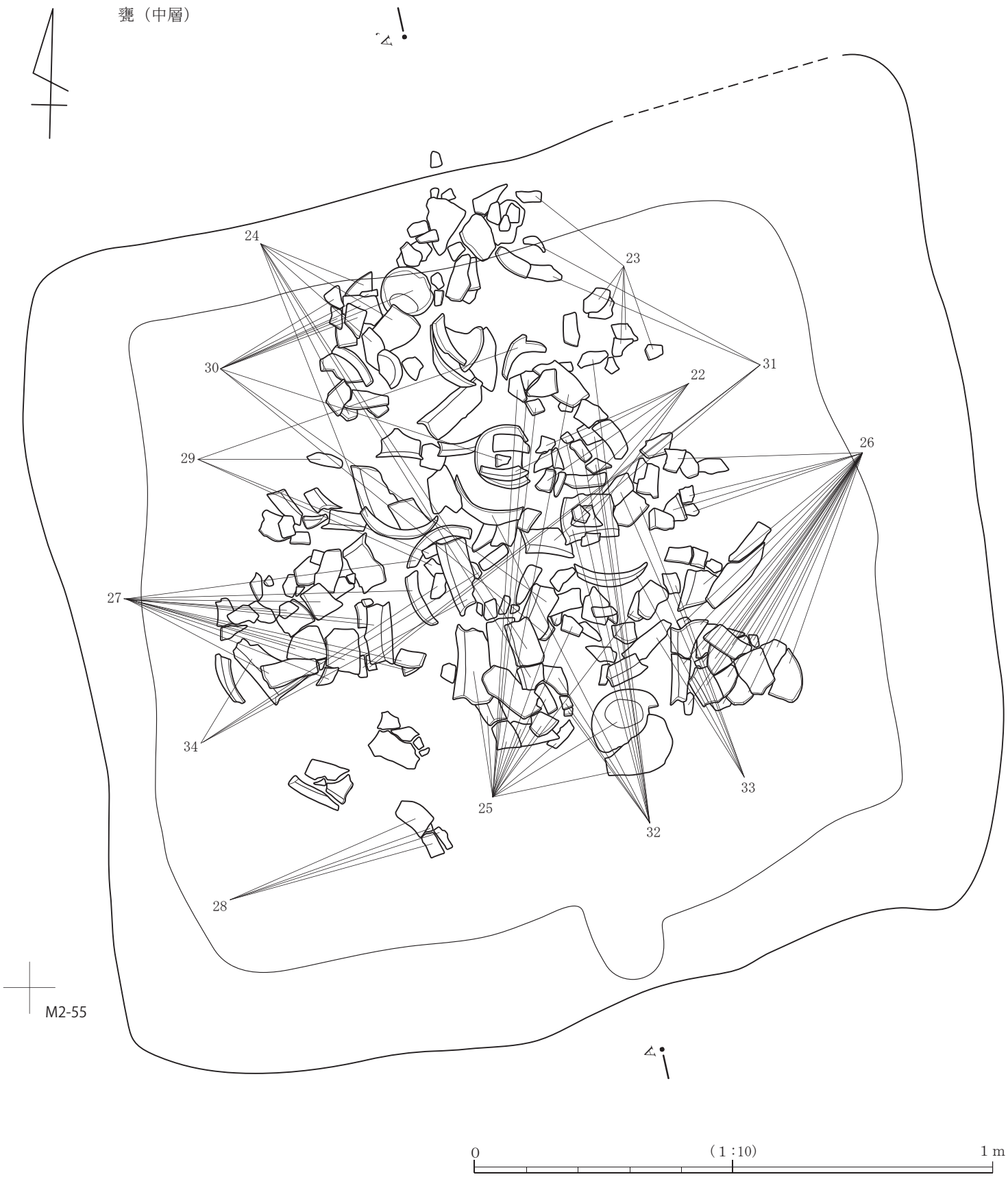
第９図　ＳＸ 016、ＳＫ 126 遺構実測図



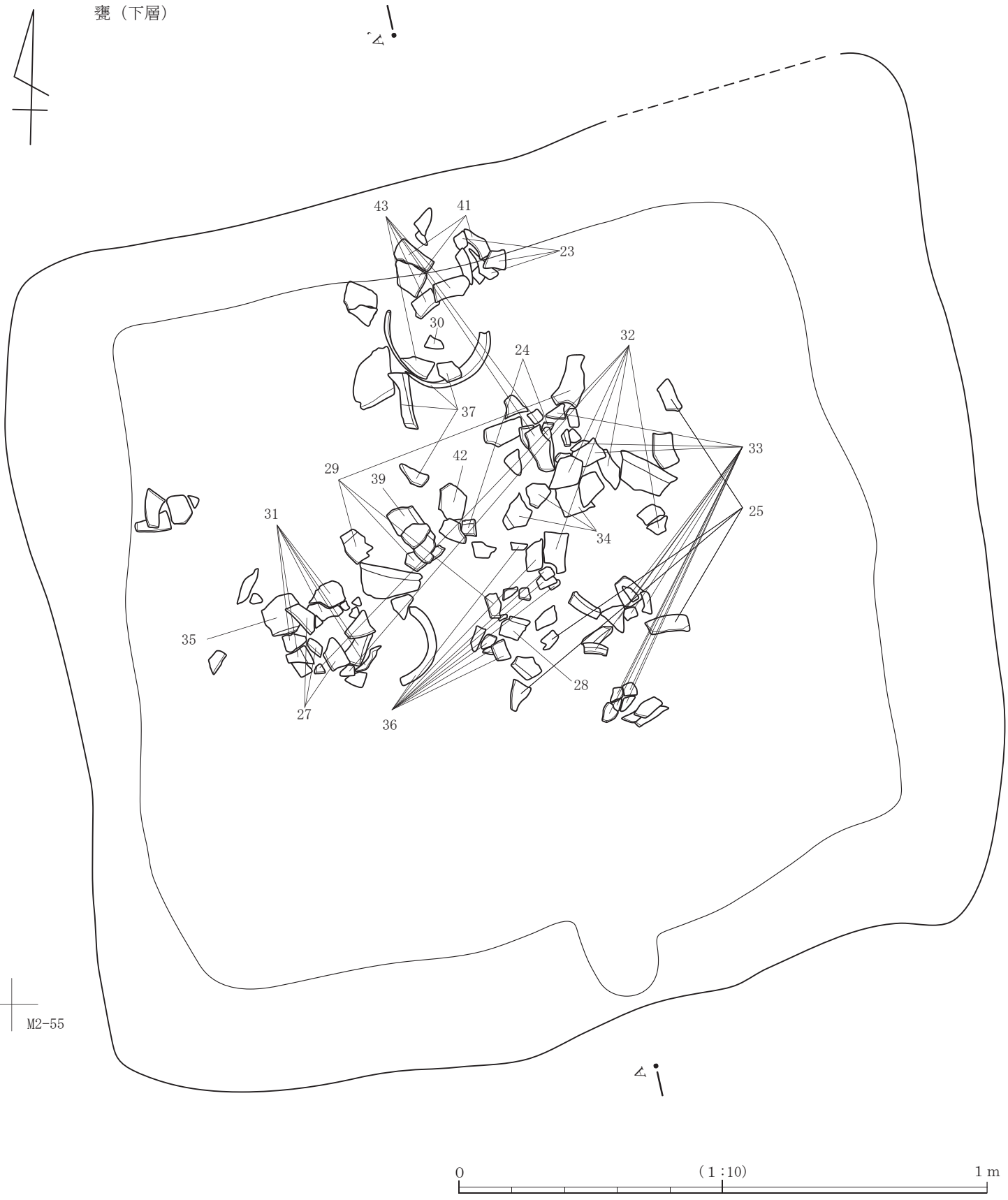
第10図　ＳＸ016、ＳＫ126、土器集中区遺物出土状況図



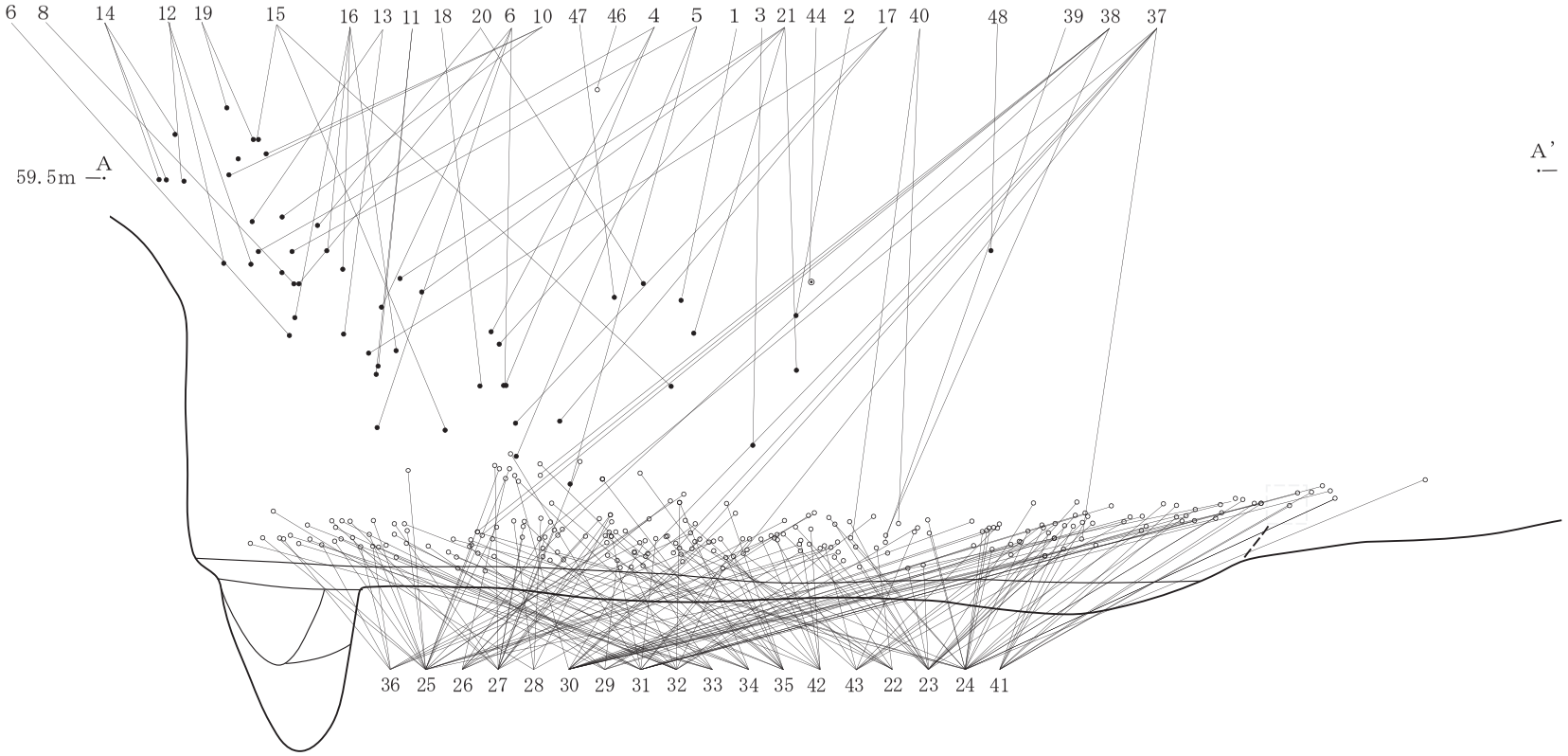
第 11 図　ＳＸ 016 遺物出土状況図①



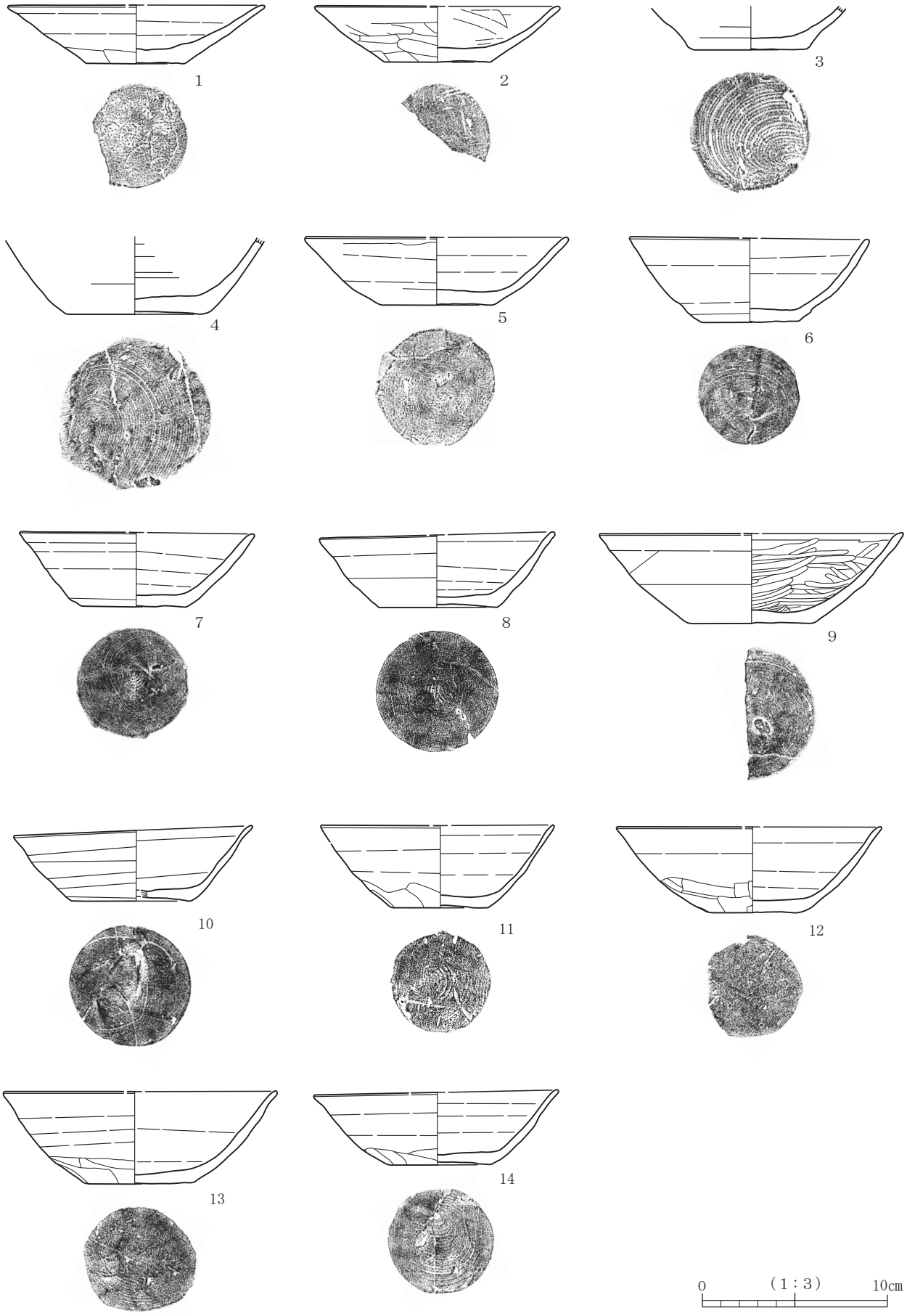
第 12 図　ＳＸ 016 遺物出土状況図②



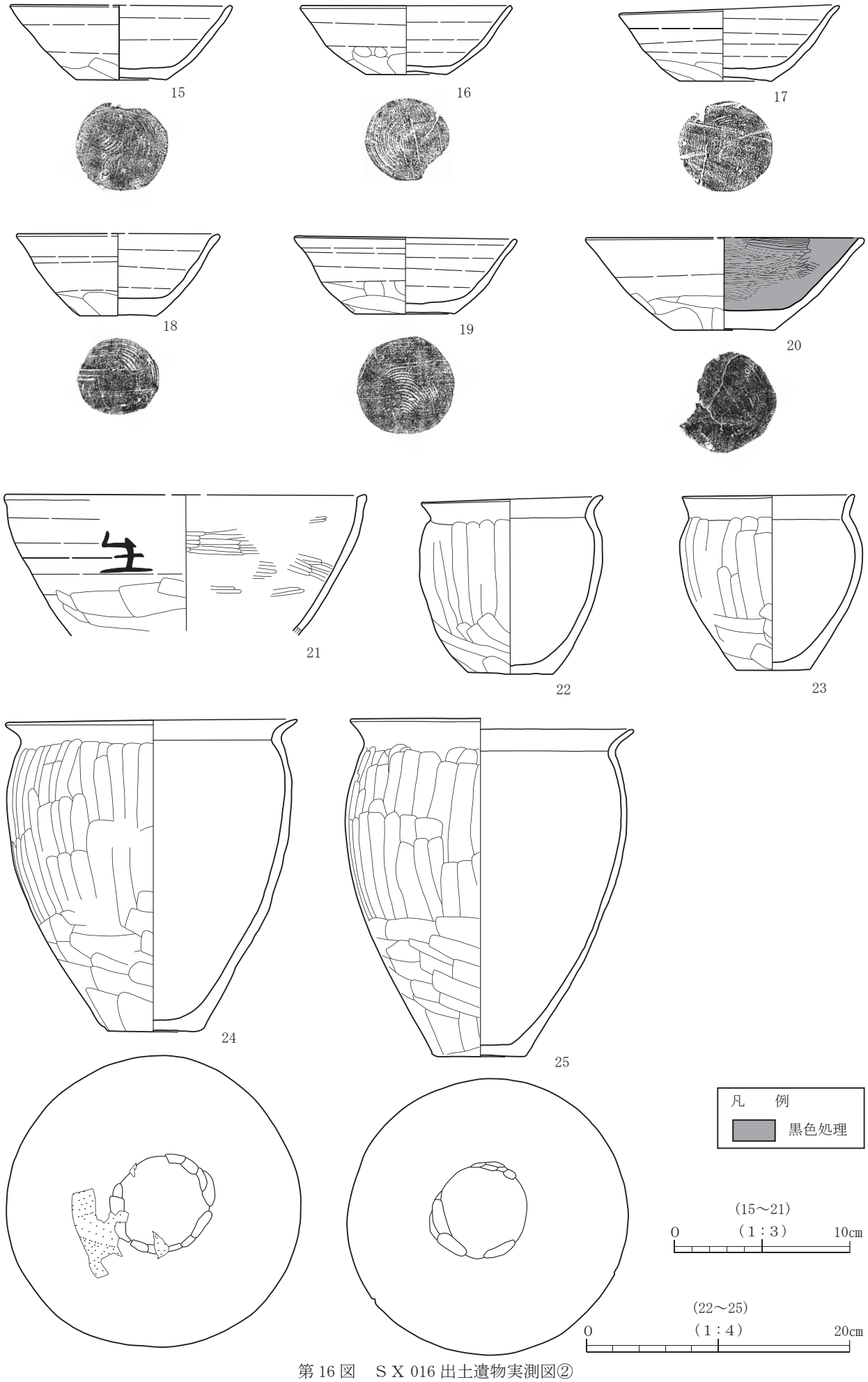
第 13 図　ＳＸ 016 遺物出土状況図③



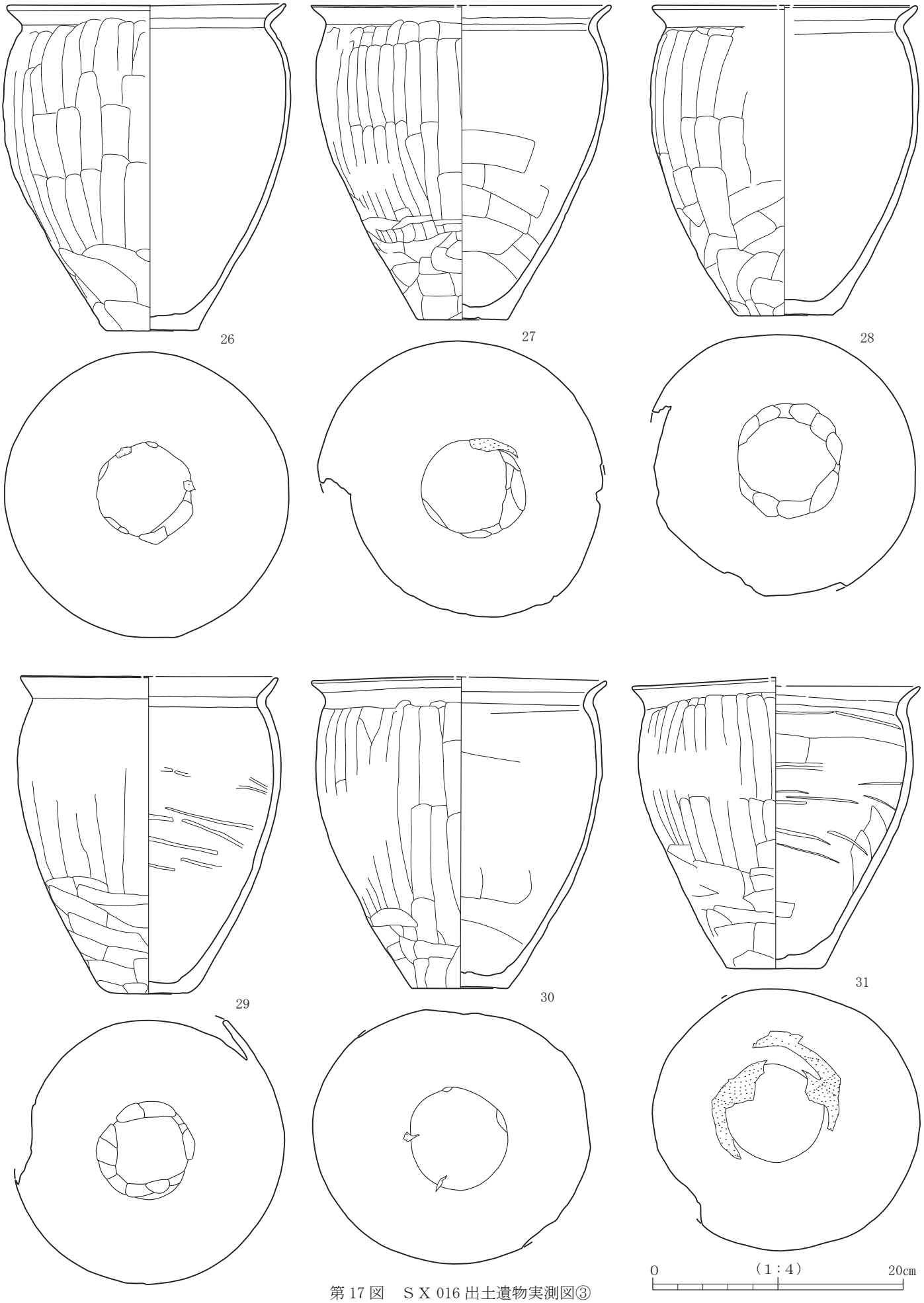
第14図　ＳＸ016遺物出土状況図④



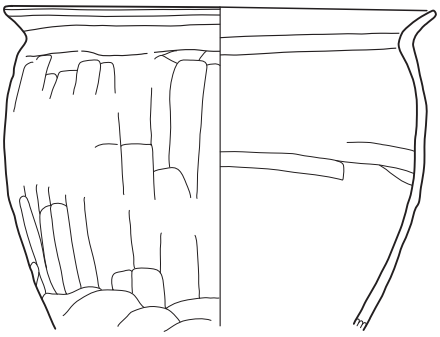
第 15 図　ＳＸ 016 出土遺物実測図①

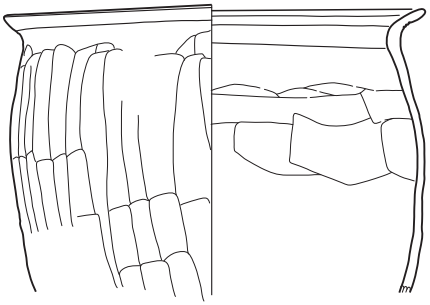


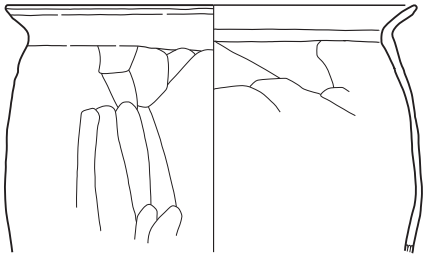
第 16 図　ＳＸ 016 出土遺物実測図②

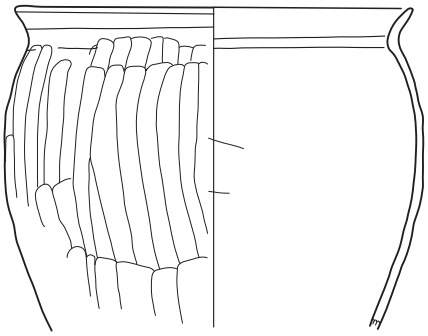


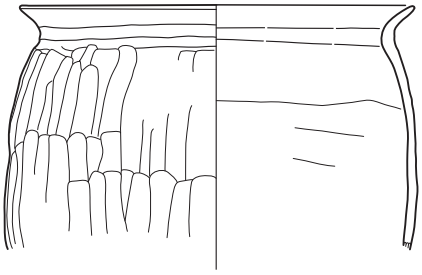
第 17 図　ＳＸ 016 出土遺物実測図③

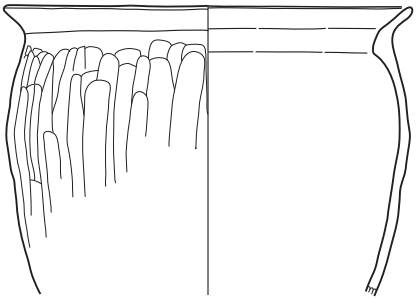

32

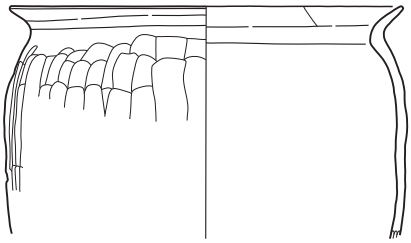

33

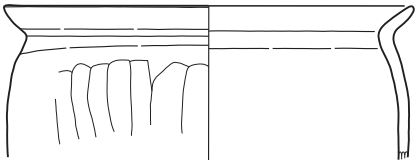

34

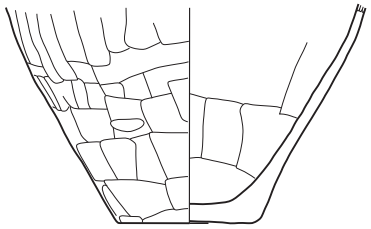

35

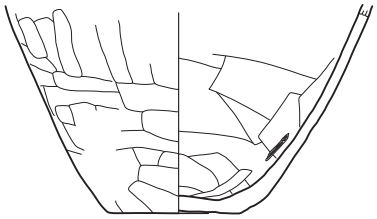

36

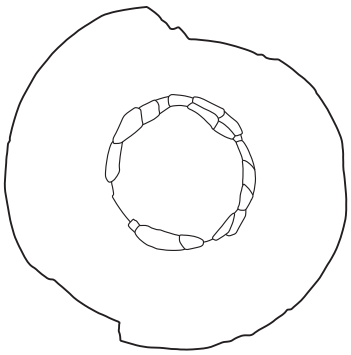

37

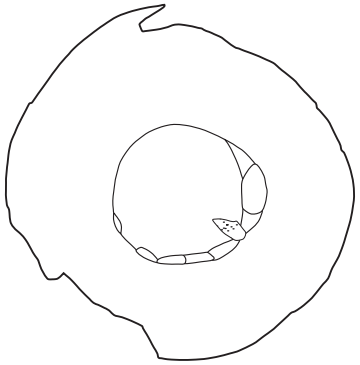

38

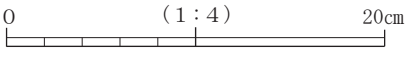

39


40

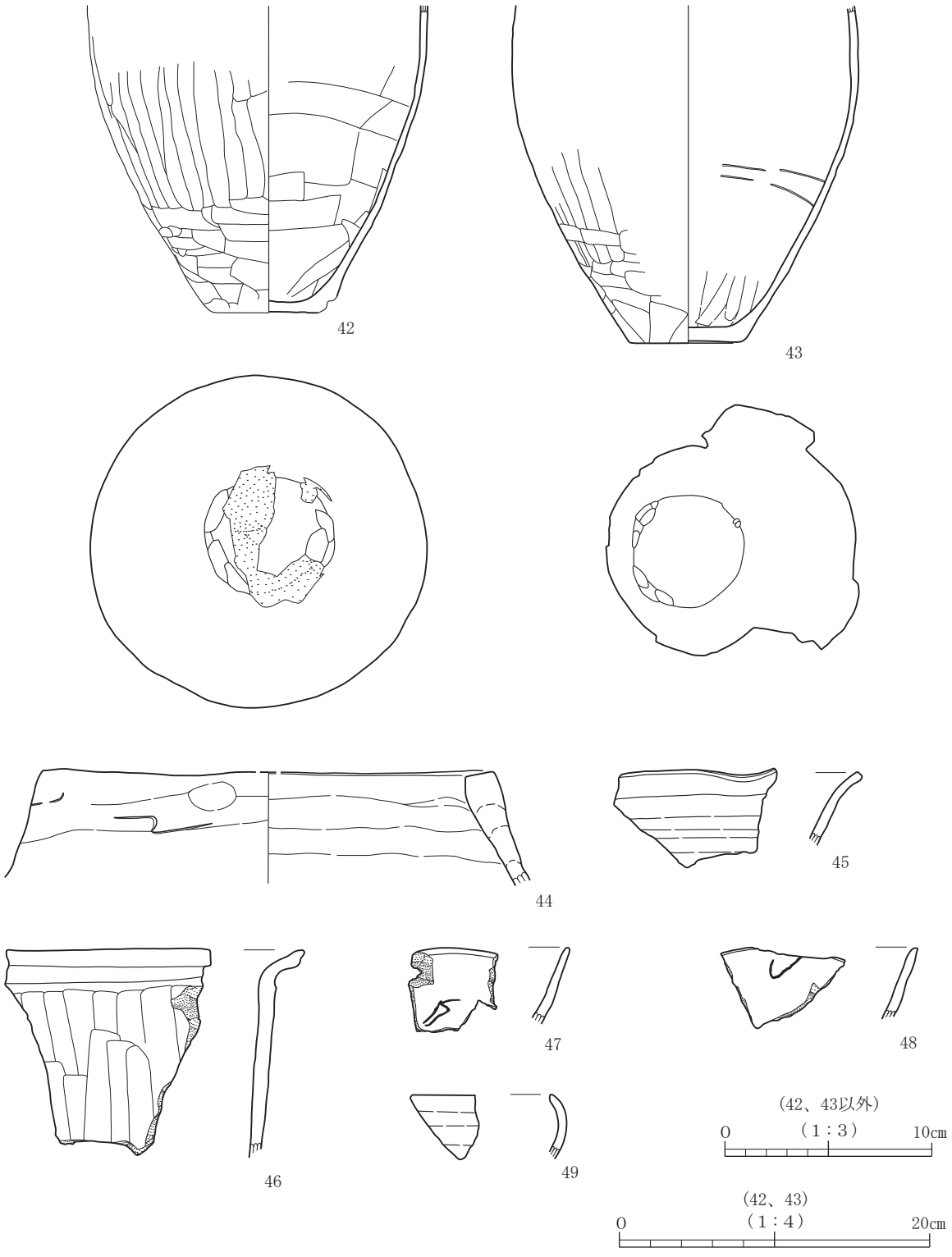

41



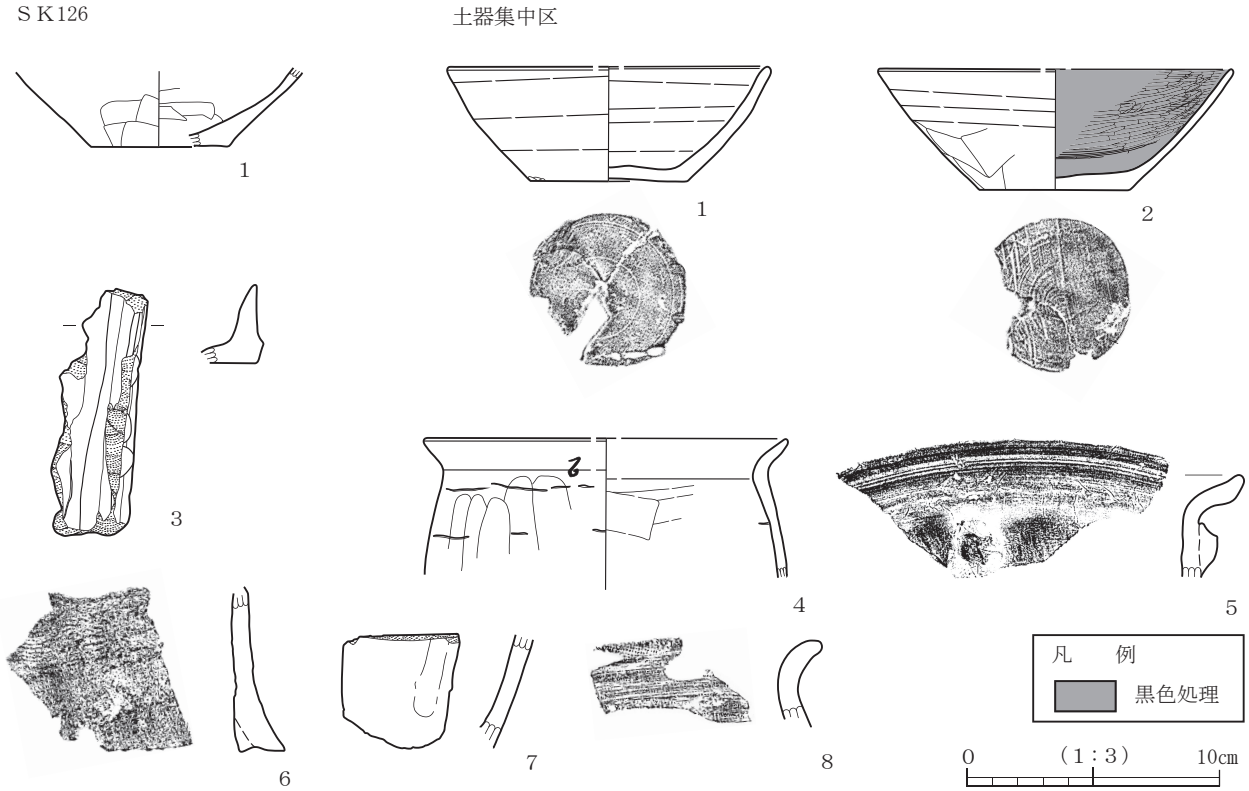




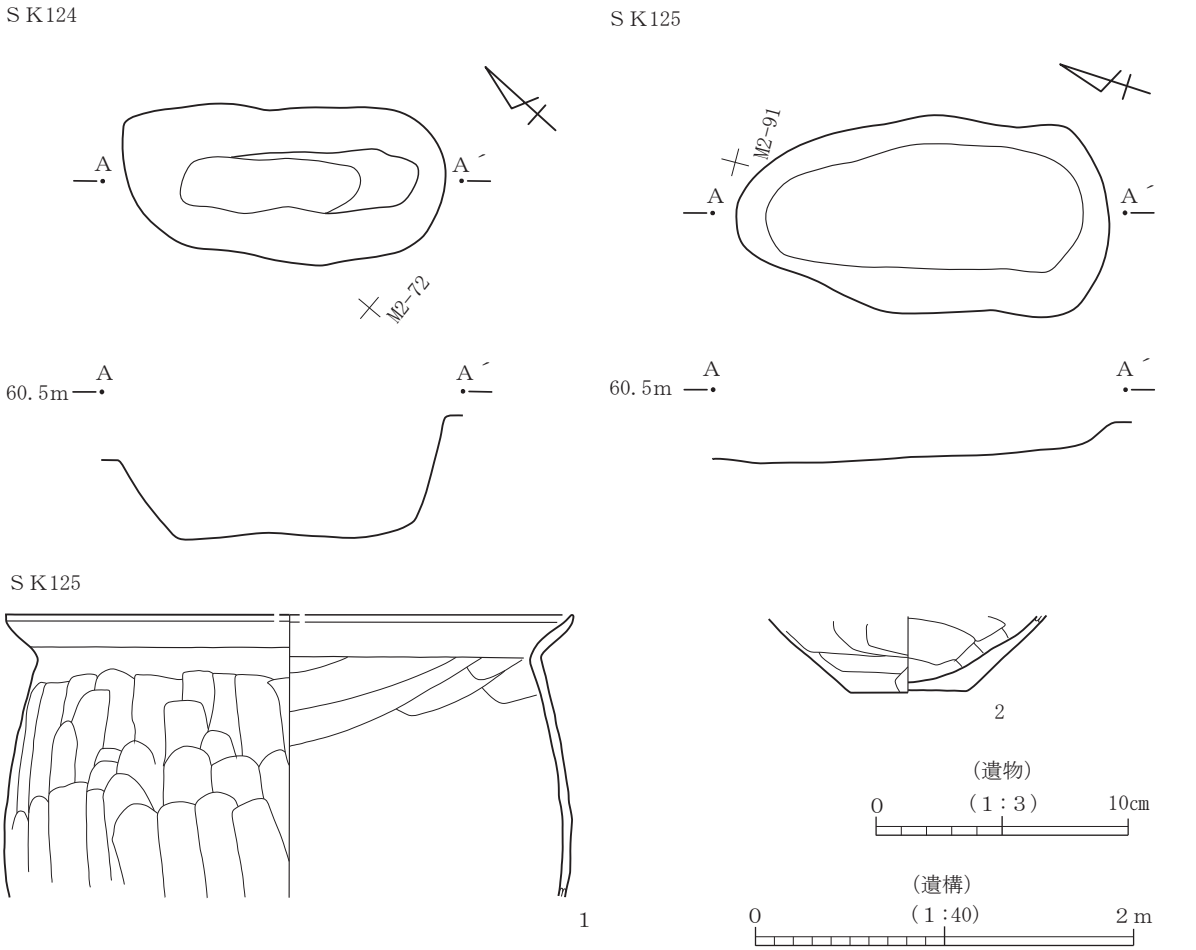
第 18 図　ＳＸ 016 出土遺物実測図④



第 19 図　ＳＸ 016 出土遺物実測図⑤



第 20 図　ＳＫ 126、土器集中区出土遺物実測図



第 21 図　ＳＫ 124、125 遺構及び出土遺物実測図

表３　寺野台遺跡（７）出土遺物計測表

（単位：ｇ）

遺構名	土師器			土師質須恵器	須恵器	礫	細片	灰釉陶器	その他	合計
グリッド名	坏・皿	甕・甑	置きカマド	甕・甑	甕					
SX015	401.03 (80.63)	1,145.80				25.61	156.94			1,729.38
SX016	5,326.94 (132.60)	27,438.88	161.40	194.10			499.78			33,621.10
SK126	15.72	286.13				62.05				363.90
SK125		293.75								293.75
M2-25グリッド							5.01			5.01
M2-26グリッド		44.05								44.05
M2-33グリッド	558.54 (69.48)	1,035.91	149.39	67.84		82.77	317.56			2,212.01
M2-34グリッド	457.19	1,276.83		269.46		100.71	499.15			2,603.34
M2-35グリッド	194.93	547.41	65.70	54.88		53.66	141.49			1,058.07
M2-36グリッド	131.64	188.43		6.46		5.82	62.37			394.72
M2-43グリッド	299.11	486.95		57.99		41.85	89.87			975.77
M2-44グリッド	1,272.66	2,775.27		124.87		15.05	368.64			4,556.49
M2-45グリッド	680.87	921.52		120.09	72.71	9.54	145.58	4.31		1,954.62
M2-46グリッド	204.34	215.93		19.72			100.69	13.50		554.18
M2-52グリッド	29.33									29.33
M2-53グリッド	28.89	84.35					40.86			154.10
M2-54グリッド	228.39	905.89		42.19		138.53	77.06			1,392.06
M2-55グリッド	73.85	118.31		38.21			61.08			291.45
M2-56グリッド	33.02	3.82		17.62		4.80	2.90			62.16
M2-63グリッド							6.34			6.34
M2-64グリッド	7.55	6.47					20.12			34.14
M2-65グリッド	16.27	14.13								30.40
調査区一括	527.98 (116.63)	2,336.43		147.21	17.82	758.69	1,027.78	1.96	14.17	4,832.04
合計	10,488.25 (399.34)	40,126.26	376.49	1,160.64	90.53	1,299.08	3,623.22	19.77	14.17	57,198.41

※坏・皿（）は、内面：黒色処理を示す

表４　寺野台遺跡（７）坏底部調整別計測表

遺構名 グリッド名	回転ヘラケズリ			手持ちヘラケズリ			回転糸切り		
	点数 （点）	底径 （cm）	総重量 （ｇ）	点数 （点）	底径 （cm）	総重量 （ｇ）	点数 （点）	底径 （cm）	総重量 （ｇ）
SX015	1	5.6	256.08			12.73			16.85
SX016	11	5.3-6.8	1,029.68	17（９）	4.4-7.5	1,803.80	3	6.0-7.5	205.13
土器集中区	5	5.6-6.5	829.94	９（８）	5.0-6.2	577.02	1	6.3	216.04
総重量 合計			2,115.70			2,393.55			438.02

※点数・底径は、坏底部の残存率が50％以上のもの

手持ちヘラケズリの点数（）は、回転糸切り痕を残すもの

表５　寺野台遺跡（７）出土遺物観察表

（）：復元

遺構名	遺物番号	器種	部位 依存率	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	重量 (g)	色調	調整技法等	備考
ＳＸ015	1	土師器 坏	体部～口縁部：90% 底部：100%	12.4	4.5	5.6	113.72	橙	ロクロ成形 外面：（体部下部）回転ヘラケズリ 底部：回転ヘラケズリ	
ＳＸ015	2	土師器 台付坏	体部～口縁部：20% 底部：40%	(13.9)	5.2	(6.8)	80.63	にぶい黄褐	ロクロ成形 外面：（体部下部）回転ヘラケズリ 内面：横ミガキ、黒色処理 底部：回転ヘラケズリ	
ＳＸ015	3	土師器 甕	口縁部破片	(9.3)	3.7～	-	14.69	橙	ロクロ成形	小型甕
ＳＸ015	4	土師器 甕	口縁部：40%	(20.1)	16.1～	-	718.20	橙	外面：（体部上部）縦ヘラケズリ （体部下部）横ヘラケズリ 内部：横ヘラナデ	
ＳＸ016	1	土師器 皿	体部～口縁部：20% 底部：80%	(13.8)	3.2	5.4	73.12	明黄褐	ロクロ成形 外面：（体部下部）回転ヘラケズリ 底部：回転ヘラケズリ	
ＳＸ016	2	土師器 皿	体部～口縁部：20% 底部：50%	(13.6)	3.1	(5.9)	47.53	黄褐	ロクロ成形 外面：（体部下部）手持ちヘラケズリ 底部：手持ちヘラケズリ	
ＳＸ016	3	土師器 坏	体部：10% 底部：100%	-	2.4～	6.3	54.45	にぶい黄褐	ロクロ成形 底部：回転糸切り	
ＳＸ016	4	土師器 坏	体部：10% 底部：100%	-	4.2～	7.5	100.54	明黄褐	ロクロ成形 底部：回転糸切り	
ＳＸ016	5	土師器 坏	体部～口縁部：20% 底部：100%	(14.4)	3.2	6.2	72.67	明黄褐	ロクロ成形 外面：（体部下部）回転ヘラケズリ 底部：回転ヘラケズリ	
ＳＸ016	6	土師器 坏	ほぼ完形	13.0	4.6	5.3	108.53	橙	ロクロ成形 外面：（体部下部）回転ヘラケズリ 底部：回転ヘラケズリ	
ＳＸ016	7	土師器 坏	完形	12.8	4.1	5.7	136.27	にぶい黄褐	ロクロ成形 外面：（体部下部）回転ヘラケズリ 底部：回転ヘラケズリ （回転糸切り痕あり）	
ＳＸ016	8	土師器 坏	完形	12.9	4.2	6.5	131.73	橙	ロクロ成形 外面：（体部下部）回転ヘラケズリ 底部：回転ヘラケズリ	
ＳＸ016	9	土師器 坏	体部～口縁部：30% 底部：50%	(16.6)	4.9	6.8	107.43	橙	ロクロ成形 外面：（体部下部）回転ヘラケズリ 内面：横ミガキ 底部：回転ヘラケズリ	
ＳＸ016	10	土師器 坏	体部～口縁部：80% 底部：100%	13.1	4.2	6.6	100.90	明褐	ロクロ成形 外面：（体部下部）回転ヘラケズリ 底部：回転ヘラケズリ	
ＳＸ016	11	土師器 坏	体部～口縁部：50% 底部：100%	(12.8)	4.5	5.3	93.41	明褐	ロクロ成形 外面：（体部下部）手持ちヘラケズリ 底部：手持ちヘラケズリ （回転糸切り痕あり）	
ＳＸ016	12	土師器 坏	体部～口縁部：40% 底部：100%	(14.5)	4.7	5.0	106.09	にぶい黄褐	ロクロ成形 外面：（体部下部）手持ちヘラケズリ 底部：手持ちヘラケズリ	
ＳＸ016	13	土師器 坏	体部～口縁部：80% 底部：100%	14.8	5.1	5.8	166.65	にぶい黄褐	ロクロ成形 外面：（体部下部）手持ちヘラケズリ 底部：手持ちヘラケズリ （回転糸切り痕あり）	
ＳＸ016	14	土師器 坏	体部～口縁部：80% 底部：100%	13.1	4.1	5.6	111.69	にぶい黄褐	ロクロ成形 外面：（体部下部）手持ちヘラケズリ 底部：手持ちヘラケズリ （回転糸切り痕あり）	
ＳＸ016	15	土師器 坏	完形	12.7	4.4	5.2	123.30	明褐	ロクロ成形 外面：（体部下部）手持ちヘラケズリ 底部：手持ちヘラケズリ （回転糸切り痕あり）	
ＳＸ016	16	土師器 坏	体部～口縁部：50% 底部：100%	12.0	4.0	4.8	65.41	橙	ロクロ成形 外面：（体部下部）手持ちヘラケズリ 底部：手持ちヘラケズリ （回転糸切り痕あり）	
ＳＸ016	17	土師器 坏	ほぼ完形	12.6	4.4	5.3	123.94	橙	ロクロ成形 外面：（体部下部）手持ちヘラケズリ 底部：手持ちヘラケズリ	
ＳＸ016	18	土師器 坏	体部～口縁部：40% 底部：100%	(11.6)	4.7	4.4	83.47	橙	ロクロ成形 外面：（体部下部）手持ちヘラケズリ 底部：手持ちヘラケズリ （回転糸切り痕あり）	

表５　寺野台遺跡（７）出土遺物観察表（続き）

（）：復元

遺構名	遺物番号	器種	部位 依存率	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	重量 (g)	色調	調整技法等	備考
ＳＸ016	19	土師器 坏	完形	12.7	4.5	5.7	138.42	にぶい黄褐	ロクロ成形 外面：（体部下部）手持ちヘラケズリ 底部：手持ちヘラケズリ （回転糸切り痕あり）	
ＳＸ016	20	土師器 坏	体部～口縁部：40% 底部：80%	(15.6)	5.3	5.7	122.66	にぶい黄褐	ロクロ成形 外面：（体部下部）手持ちヘラケズリ 底部：手持ちヘラケズリ 内面：横ミガキ、黒色処理	
ＳＸ016	21	土師器 鉢	体部～口縁部：40%	(20.0)	8.0～	－	214.81	にぶい黄褐	ロクロ成形 外面：（体部下部）横ヘラケズリ 内面：横ミガキ	外面：墨書「生」
ＳＸ016	22	土師器 甕	完形	13.6	13.5	6.4	472.33	明黄褐	外面：（体部上部）縦ヘラケズリ （体部下部）斜めヘラケズリ 内面：横ヘラナデ	小型甕 内面：炭化物付着
ＳＸ016	23	土師器 甕	完形	13.1	13.4	5.6	433.05	明黄褐	外面：（体部上部）縦ヘラケズリ （体部下部）斜めヘラケズリ 内面：横ヘラナデ	小型甕
ＳＸ016	24	土師器 甕	ほぼ完形	22.2	23.9	6.7	1,317.62	明黄褐	外面：（体部上部）縦ヘラケズリ （体部下部）横ヘラケズリ （底部）調整あり 内面：横ヘラナデ	
ＳＸ016	25	土師器 甕	完形	21.2	25.6	6.7	1,229.48	橙	外面：（体部上部）縦ヘラケズリ （体部下部）横ヘラケズリ （底部）調整あり 内面：横ヘラナデ	
ＳＸ016	26	土師器 甕	完形	21.9	26.5	6.9	1,461.82	にぶい黄褐	外面：（体部上部）縦ヘラケズリ （体部下部）横ヘラケズリ （底部）調整あり 内面：横ヘラナデ	
ＳＸ016	27	土師器 甕	口縁部：90% 胴部：60% 底部：100%	23.7	25.1	7.2	1,188.82	明黄褐	外面：（体部上部）縦ヘラケズリ （体部下部）横ヘラケズリ （底部）調整あり 内面：横ヘラナデ	
ＳＸ016	28	土師器 甕	口縁部：20% 胴部：60% 底部：100%	(21.0)	24.7	7.5	1,056.37	明黄褐	外面：（体部上部）縦ヘラケズリ （体部下部）斜めヘラケズリ （底部）調整あり 内面：横ヘラナデ	
ＳＸ016	29	土師器 甕	口縁部：10% 胴部：50% 底部：100%	(20.6)	25.4	5.9	780.42	にぶい黄褐	外面：（体部上部）縦ヘラケズリ （体部下部）斜めヘラケズリ （底部）調整あり 内面：横ヘラナデ	
ＳＸ016	30	土師器 甕	口縁部：40% 胴部：60% 底部：100%	23.8	25.0	7.8	1,137.85	にぶい黄褐	外面：（体部上部）縦ヘラケズリ （体部下部）横ヘラケズリ 内面：横ヘラナデ	
ＳＸ016	31	土師器 甕	口縁部：50% 胴部：60% 底部：90%	(22.8)	24.1	7.6	947.97	橙	外面：（体部上部）縦ヘラケズリ （体部下部）横ヘラケズリ 内面：横ヘラナデ	
ＳＸ016	32	土師器 甕	口縁部：100% 胴部：70%	22.6	17.1	－	911.38	橙	外面：（体部上部）縦ヘラケズリ （体部下部）横ヘラケズリ 内面：横ヘラナデ	
ＳＸ016	33	土師器 甕	口縁部：100% 胴部：40%	22.3	15.4～	－	670.09	明褐	外面：（体部上部）縦ヘラケズリ 内面：横ヘラナデ	内面：種子痕有り
ＳＸ016	34	土師器 甕	口縁部：100% 胴部：40%	21.9	13.2～	－	578.16	にぶい黄褐	外面：（体部上部）縦ヘラケズリ 内面：横ヘラナデ	
ＳＸ016	35	土師器 甕	口縁部：90% 胴部：40%	21.1	17.1～	－	544.97	明黄褐	外面：（体部上部）縦ヘラケズリ 内面：横ヘラナデ	
ＳＸ016	36	土師器 甕	口縁部：90% 胴部：30%	20.9	12.9～	－	528.57	橙	外面：（体部上部）縦ヘラケズリ 内面：横ヘラナデ	
ＳＸ016	37	土師器 甕	口縁部：90% 胴部：10%	21.6	15.4～	－	451.67	にぶい黄褐	外面：（体部上部）縦ヘラケズリ 内面：横ヘラナデ	
ＳＸ016	38	土師器 甕	口縁部：90% 胴部：10%	20.6	12.3～	－	495.43	にぶい黄褐	外面：（体部上部）縦ヘラケズリ 内面：横ヘラナデ	
ＳＸ016	39	土師器 甕	口縁部：100% 胴部：10%	21.8	8.2～	－	401.78	にぶい黄褐	外面：（体部上部）縦ヘラケズリ 内面：横ヘラナデ	
ＳＸ016	40	土師器 甕	胴部：30% 底部：100%	－	13.0	7.1	539.43	にぶい黄褐	外面：（体部上部）縦ヘラケズリ （体部下部）横ヘラケズリ （底部）調整あり 内面：横ヘラナデ	
ＳＸ016	41	土師器 甕	胴部：20% 底部：100%	－	11.0	6.7	430.77	にぶい黄褐	外面：（体部上部）縦ヘラケズリ （体部下部）横ヘラケズリ （底部）調整あり 内面：横ヘラナデ	

表５　寺野台遺跡（７）出土遺物観察表（続き）

（）：復元

遺構名	遺物番号	器種	部位 依存率	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	重量 (g)	色調	調整技法等	備考
ＳＸ016	42	土師器 甕	胴部：40% 底部：40%	－	19.8～	(7.7)	671.62	橙	外面：（体部上部）縦ヘラケズリ （体部下部）横ヘラケズリ （底部）調整あり 内面：横ヘラナデ	
ＳＸ016	43	土師器 甕	胴部：40% 底部：100%	－	21.7～	7.2	704.19	にぶい黄褐	外面：（体部上部）縦ヘラケズリ （体部下部）横ヘラケズリ （底部）調整あり 内面：横ヘラナデ	
ＳＸ016	44	土師器 置きカマド	口縁部：40%	(21.6)	5.5～	－	308.79	にぶい黄褐	外面：横ナデ 内面：（口唇部）ヘラケズリ （体部下部）横ナデ	
ＳＸ016	45	土師器 片口鉢	口縁部破片	－	5.1～	－	20.62	にぶい黄褐	ロクロ成形 内面：横ミガキ	
ＳＸ016	46	土師器 甑	口縁部破片	－	9.9～	－	85.58	黄褐	外面：縦ヘラケズリ 内面：横ヘラナデ	
ＳＸ016	47	土師器 坏	口縁部破片	－	4.0～	－	8.73	橙	ロクロ成形	内面：墨書
ＳＸ016	48	土師器 坏	口縁部破片	－	3.9～	－	9.03	明黄褐	ロクロ成形	内面：墨書
ＳＸ016	49	土師器 鉢	口縁部破片	－	2.7～	－	2.18	にぶい黄褐	ロクロ成形	鉄鉢形土器
ＳＫ126	1	土師器 甕	底部：30%	－	3.2～	(5.6)	34.08	にぶい黄褐	外面：（体部下部）横ヘラケズリ 内面：横ヘラナデ	
土器集中区	1	土師器 坏	体部～口縁部：40% 底部：100%	(12.6)	4.5	(6.0)	84.21	にぶい黄褐	ロクロ成形 外面：（体部下部）回転ヘラケズリ 底部：回転ヘラケズリ	
土器集中区	2	土師器 坏	体部～口縁部：20% 底部：80%	(13.8)	4.8	(6.0)	69.48	褐灰	ロクロ成形 外面：（体部下部）手持ちヘラケズリ 内面：横ミガキ、黒色処理 底部：手持ちヘラケズリ （回転糸切り痕あり）	
土器集中区	3	土師器 置きカマド	破片	－	3.2～	－	65.70	明黄褐	外面：ナデ 内面：横ナデ	
土器集中区	4	土師器 甕	口縁部：30%	(14.0)	5.5～	－	64.80	明黄褐	外面：（体部上部）縦ヘラケズリ 内面：横ヘラナデ	小型甕 外面：墨書 輪積痕あり
土器集中区	5	土師質 須恵器 甑	口縁部破片	－	4.2～	－	52.91	にぶい黄褐	外面：タタキ目 内面：横ヘラナデ	
土器集中区	6	須恵器 甕	胴部破片	－	6.5～	－	52.02	灰黄	外面：タタキ目	
土器集中区	7	灰釉陶器 長頸甕？	胴部破片	－	4.5～	－	13.50	灰黄	ロクロ成形	
土器集中区	8	土師器 甕	口縁部破片	－	3.4～	－	22.09	橙	外面：（体部上部）縦ヘラケズリ 内面：横ヘラナデ	口唇部 布目痕あり
ＳＫ125	1	土師器 甕	口縁部：40%	(22.4)	11.1～	－	204.33	にぶい黄褐	外面：（体部上部）縦ヘラケズリ 内面：横ヘラナデ	
ＳＫ125	2	土師器 甕	底部：100%	－	3.1～	4.7	89.42	にぶい黄褐	外面：（体部下部）横ヘラケズリ 内面：横ヘラナデ	

Ⅳ　総括

1　遺構

寺野台遺跡（5）からは、縄文時代の陥穴1基、奈良・平安時代の竪穴住居跡1軒、土坑7基、寺野台遺跡（7）からは、奈良・平安時代の土器焼成遺構3基、土坑2基が検出した。土器焼成遺構3基の規模は長軸・短軸ともに1.8ｍ前後であり、周辺の遺跡で検出されている土器焼成遺構の中では比較的小型のものに当たる。3基のうち2基は台地北側の緩斜面部に立地しており、周辺遺跡から検出されている土器焼成遺構も緩斜面部に立地していることから、類似性が見られる。しかし、平面形態としては、方形・隅丸方形のものが2基あり、楕円形を一般的な形態とする土器焼成遺構の中では珍しい。ＳＸ016、ＳＫ126の底面からは2基のピットが検出されているが、周辺遺跡における土器焼成遺構内のピット検出例はほとんどない。ＳＸ016及びその周辺からは土師器を中心とした大量の遺物が出土し、ＳＸ016の底面付近からは土師器甕を中心に出土している。

近隣における土師器の一括出土例としては同市内の永吉台遺跡群や習志野市谷津貝塚において、自然の窪みや埋没しつつある住居跡内からの出土例がある。しかし、両遺跡とも坏や皿などの供膳具が中心であり、甕の出土数は少ない。出土した甕には使用の痕跡が見られるものが少なく、完形になるものも少ない。しかし、焼成後に底部を整形するかのような調整痕が見られるものもあり、中には底部を方形にかたどっているかのような調整が加えられた甕もある。出土位置は遺構内において分散しており、設置したものではなく廃棄した印象を受ける。焼成失敗品、完成品のどちらにせよ、未使用の甕の底部を調整し、一か所に廃棄された様子から何らかの意図を感じる。ＳＸ016覆土上層及び土器集中区から出土する遺物は、土師器坏・甕を中心として、置きカマドや須恵器甕など様々であるが、遺存状態の良い土師器坏以外の接合例は少ない。寺野台遺跡（6）においても、ＳＸ016及び土器集中区が位置する斜面部より同時期の遺物が多く出土しており、遺跡が立地する台地北側斜面部を廃棄場として利用していた可能性がある。

2　遺物

土師器坏は、ロクロ成形で、底部及び体部下部に回転ヘラケズリを施すもの、底部及び体部下部に手持ちヘラケズリを施し、底部に回転糸切り痕を残すものが多く、底径では口径の1／2以下のものがほとんどを占める。土師器甕は倒卵形をし、外面胴部の上部を縦方向のヘラケズリ、下部を横方向もしくは斜め方向のヘラケズリを施すものが多く出土している。土師器坏はＳＸ016及び土器集中区から約9.5㎏出土しており、本遺跡の出土例から坏1個体の質量を約130 ｇと仮定すると、73個以上に相当する。また、土師器甕も同地区から約36㎏出土しており、本遺跡の出土例から甕1個体の質量を約1.3㎏と仮定すると、27個以上に相当する。土師器坏・甕の型式、置きカマドや片口鉢が出土することから、時期は9世紀後半から10世紀前半と推測される。これは寺野台遺跡の他の調査区と同時期であり、周辺の土器焼成遺構が所在する樋爪遺跡、永吉台遺跡群西寺原地区とも並行する。

参考文献　望月大輔他　2013 『谷津貝塚埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ』テイケイトレード株式会社
佐久間豊他　1983 「旧上総国における奈良・平安時代土器編年試案」シンポジウム資料『房総における奈良・平安時代の土器』史館同人・市立市川考古博物館
豊巻幸正他　1985 『永吉台遺跡群』 財団法人君津郡市文化財センター